

あおぞら



特集1 ジェネリック医薬品(GE)を有効活用しよう

～安いだけじゃない。知らないともったいない、今のGE～

特集2 冬場の肌乾燥を予防しましょう



ジェネリック医薬品(GE)を有効活用

「安いだけじゃない。知らないともったいない、GEの今」

なぜ薬局でジェネリック医薬品を

すすめられるのか

近年国は、安価なジェネリック医薬品(以下GE)の使用を強く推奨しています。国民の高齢化などで医療費は年々増え続けており、また国民皆保険制度のため薬代も国(税金)が大半を負担するからです。そこで、GEを使うことが半ば義務かのような政策をとっているため、薬局はGEをすすめてくるのです。ただ、国民皆保険制度で個人の医療費の自己負担が少ないので、国民のGEに対する関心が低いのが現状です。

GE(ジェネリック医薬品)とは

医薬品には、いくつかの特許が存在します。そのうち、有効成分に関する特許が切れた後、その有効成分を使って先発品とは異なるメーカーが製造・販売する薬がGEです。

先発品は、新しい薬のため一剤あた

後発医薬品数量シェアの推移と目標



り数百億〜数千億円程度の開発費がかかります。この開発費を回収するため高い値段で販売されます。対してGEは、開発費を一億円程度に抑えることができます。すでに先発品の有効性や安全性などの情報があり、新たな研究開発や試験を行う必要がないのです。開発費がかからないだけで、安価だからといって粗悪品という訳ではありません。

先発品とGEは同じ効果？

では、「GEは先発品より効かない」などと言われがちなのは どうしてでしょう。「安い≠悪い」というイメージもありますが、GEの性質を知ると実際のところが見えてきます。

- ① 先発品とGEの有効成分は同じ
 - ② 生物学的同等性が認められる
- ということですが。

「①有効成分は同じ」とは、逆をとれば、「有効成分以外は同じではない可能性がある」ということです。

GEは、有効成分は先発品と同じですが、それ以外の部分は特許が切れていないので、違う添加物や製法で作る必要があります。これにより、まれに効きの違いやアレルギーが起こることがあります。しかし、同じ製法でないことを利点ととらえ、先発品より飲みやすくしたり、有効成分がより効果的に作用するように工夫したりして



いるGEもあります。

もうひとつ、「②生物学的同等性が認められる」とは、「体の中で先発品と同じように働くと考えられる」ということです。

薬の体内での動向を推測するのに見るのが、その薬の血中での濃度の推移です。これが決められた範囲で同じ様な推移をたどるなら、ほぼ同等の効果を得られると考えられるため、生物学的同等性があると判断され販売が認められます。

これら二つのことから、GEの効果は先発品と同等に作られるが、多少の揺らぎはあるものと言えます。

先発品と同じ内容で安い!?

AG(オーソライズドGE)とは

最近、GEの中でも特殊な存在として、オーソライズドジェネリック(以下AG)が出てきています。

AGとは、先発品の会社が医薬品の特許権を公認(オーソライズ)したGEのことで、有効成分、添加物、製法等を先発品と同一にして作ることができるため、製剤として先発品とほぼ同じで、効果もほぼ同じと考えられます。

す。さらに、先発品と原薬メーカーも生産工場も同じ場合、生物学的同等性試験も行わなくてよいことになっていきます。また、開発費用もGE同様安価なので、価格を抑えて販売できます。GEに不安を抱く方にとって、AGは安価なうえにある程度安心な薬と言えるでしょう。

	先発品	GE	AG
開発	新規開発	先発品の特許切れを利用	先発品の特許諾利用
開発費	数百億～数千億円	1億円程度	1億円程度
値段	高価	安価	安価
有効成分	新規開発	先発品と同等	先発品と同等
添加物、製法	新規開発	先発品と違う	先発品と同等
効果	新規開発	先発品と同等 ※違うことがある	先発品と同等
製剤の工夫	—	できる	できない

GEを有効活用するために知っておきたいこと

治療のためにGEを使ううえで、先に述べたような先発品とGE・AGの違いも知っておきたいのですが、それ以上に国のGEや先発品に対する各種施策、処方箋の読み方、お薬手帳の使い方などを知っておくことが非常に重要になってきます。

公開講座では、日常の治療ではなかなか知りえないこれらのことや、国、先発品メーカー、GEメーカーの経済的戦略にも焦点を置いて詳しい説明をさせていただきます。是非、公開講座にお越しください。

Toda Medical Group
TMG

第55回 田園調布中央病院 地域医療公開講座
ジェネリック医薬品(GE)を有効活用しよう
～安いだけじゃない! 知らないともったいない、GE今～

平成29年12月26日(火) 参加費無料 定員20名
10:00～11:00

講師
田園調布中央病院
薬剤師
大野 智裕

会場
野村證券 田園調布支店 ラウンジ
〒145-0071
東京都大田区田園調布2-62-3 TEL 03-5483-2011(代表)
※「メンカイザー東急スクエアガーデンサイト」さんの隣に
田園調布支店直連のエレベーターがございますのでご利用ください。

お申し込み・お問い合わせ
☎ 03-3721-7121(代表)
田園調布中央病院 担当:総務課 中井
電話受付時間:平日 9:00～16:30 土曜日 9:00～12:00

※当日撮影した写真は、当施設ホームページを通じて掲載しますのであらかじめご了承ください

冬場の肌乾燥を予防しましょう

肌が乾燥しやすい季節になりました。加齢と共に肌の水分を保持している天然保湿因子NMFや乾燥から守ってくれる脂質、セラミド、角質は減少していきます。正しいセルフケアを知って予防と対策を行いましょう。



どうして乾燥するの？

空気中の水分は気温が下がると減少します。水分は乾燥している所に流れやすいです。肌の水分も空気中に逃げ、乾燥していきます。身体が冷えると血行も悪くなり、身体のリズムが乱れて肌の表面を覆う皮脂が減ります。肌の水分が蒸発しやすくなります。

乾燥する原因

- 湯船のお湯を熱くし過ぎる
(四十二℃)
- 十五分以上の長風呂
- 暖房の付け過ぎ

予防と対策

水分を与える

- 食べ物(例)白菜、トマト、かぶ…)



水分を保持する

- オイル(シアバター、ホホバオイル)
- クリーム(ワセリン)
- 乳液(アナヤス、水素添加大豆レシチン、セラミド)
- 化粧水(ヒアルロン酸、エラスチングリセリン、コラーゲン)

水分の蒸発を防ぐ

- 加湿器をつける
- 濡れたタオルを寝室等に干す
- 入浴後、風呂場の扉を開ける

注意…湿度が高すぎるとカビなどの原因になるので加湿後は換気をしましょう。

それでも乾燥が気になる方は

何らかの病気から生じている可能性があります。原因が分からずに悩まれている方は

一度皮膚科を受診してみましよう。



発行 医療法人 社団 七仁会 田園調布中央病院
編集 田園調布中央病院広報委員会

検査科 新田 菜月

放射線科 村中 美月